

令和3年1月13日

市原市長 小出 譲治 様

古関東深海盆ジオパーク推進協議会
会長 楡井久

GSSP「チバニアン」に関わる特定不正行為の疑いについて
日本学術会議 梶田隆章会長への文書送付の報告
(研究不正は国連サミットで採択のSDGsに協力可能か)

新春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

市原市政の発展のため日夜ご奮闘されています小出市長に敬意を表します。

古関東深海盆ジオパーク推進協議会（以下、本協議会という）は令和2年12月23日に「日本学術会議に係わる国際的な研究不正への対応のお願い –地質年代『チバニアン』に関わる特定不正行為の疑いと貴会委員会の対応について–」の文書を日本学術会議 梶田隆章会長へ送付いたしましたので報告いたします。

この文書は日本学術会議会長宛ての意見書ですが、地質年代「チバニアン」の名前の由来となる地層を有します市原市に大いに関わりがありますので、ぜひともご一読頂きたく存じます。

本協議会は平成27年の市原市田淵の露頭（崖）で行われた国際現地討論会でのGSSP「チバニアン」申請グループ（以下、申請グループという）による科学倫理違反およびねつ造・改ざん行為（他の地域の露頭の古地磁気データの一部を田淵露頭のデータとして表示・説明）を指摘し告発しました。その後、申請グループによる私有地からの試料の無断採取行為に加え、GSSP「チバニアン」申請に関する論文においてもデータの捏造・改ざんといった特定不正行為の疑念が出てきました。このような科学倫理違反およびねつ造・改ざん行為は科学の常識からかけ離れたものであり、本協議会はGSSP「チバニアン」の申請を辞退すべきであると主張してきました。

しかし、申請グループはそのまま申請を進め、市原市は、市議会、マスコミも含めて、私たちの指摘した点について、深く検討されることなく、申請グループのGSSP「チバニアン」申請を無批判に応援するという事態が進行しました。そして令和2年1月にはGSSPの最終審査を通過し、「チバニアン」が正式決定されたと報じられました。

本協議会は令和2年7月、科学研究費を用いた研究活動上の不正の告発を受け付ける日本学術振興会に、申請グループの論文に関わる特定不正行為の疑念について告発いたしま

した。この告発内容は、日本学術振興会より該当論文の主要執筆者の所属機関（茨城大学および情報・システム研究機構（国立極地研究所））にそれぞれ回付されましたが、両機関での研究不正の調査報告は、“論文の結論には影響を与えない軽微なもので不正行為には該当しない”といった回答でした。なお、両機関の研究不正に関する規定には、「**結論に影響しなければ、不正行為には該当しない**」という事は書かれておりません。また、平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」にも同様の規定はありません。

本協議会は、こうした一連の経緯を踏まえ、申請グループの GSSP「チバニアン」に関する論文の特定不正行為の疑念についてまとめ、令和 2 年 12 月に日本学術会議会長へ文書を送付致しました。

この日本学術会議会長への文書で述べました不正や虚偽の「科学」を市原市が行政として許容して良いのでしょうか。このような許容は、市民と市原市政との信頼を損なうことになるばかりでなく、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた科学的な取り組みが不可能となるのではないのでしょうか。例えば目標 4 にある「質の高い教育をみんなに：すべての人に包摂的かつ**公正な質の高い教育**を確保し、生涯学習の機会を促進する」に相反することになり、信頼しあえる持続的社會に背を向けることになりかねません。

現在、市原市では国指定天然記念物「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」の活用計画が進められていますが、研究倫理違反、研究不正の疑念を含む GSSP「チバニアン」を基軸とする天然記念物の活用では、今後その政策の足元をすくわれかねない危険があります。教育のために田淵露頭を活用されるのであれば尚の事、GSSP「チバニアン」に関わる科学倫理違反、研究不正問題の解決に向けてお働き下さることこそ、市原市の発展のためにも、教育のためにも最良の道であると考えます。

ここに日本学術会議会長への文書を同封いたします。同文書に添付した参考資料は文書量が多いため同封した CD に入れさせていただきました。マスコミ等で取り上げられていない「チバニアン」論文に関する研究不正の疑念についての詳細を CD 中の文書・資料でも説明しております。ぜひ、GSSP「チバニアン」に関する科学倫理違反と研究不正の疑念について、理解を深めていただき、今後の市政の運営に活かしていただきたいと存じます。

日本学術会議会長への文書や、それぞれの時期に発表した本協議会の見解なども本協議会のホームページ（<https://www.paleokantogeo.org/>）に掲載されておりますので、ご参照いただければ幸いです。

なお、本報告と同趣旨の「GSSP『チバニアン』に関わる特定不正行為の疑いについて—日本学術会議 梶田隆章会長への文書の送付の報告—」を令和 3 年 1 月 7 日付で市原市議会議員の皆様にも送付しましたことをお知らせいたします。

ぜひとも本協議会の活動にご理解とご協力をお願い致します。

新年も小出市長におかれまして一層のご活躍を祈念致します。

追記：この報告文書を、本協議会のホームページに掲載する予定があることも
お知らせいたします。